

週報

こひつじ

第40巻 23号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

投擲通信

その三 過ぎ去ったすべての
よいことに感謝する

老年期を迎え、過去の精算をし、しさと雄々しさを、母からは神を怒りや後悔の思いを捨てたなら、畏れること、および惜しみなく与次は「過ぎ去ったすべてのよいこえること、そして簡素な生活をす」とに感謝しなさい」とヒルティはることを、家庭教師からは、自分のことをやって、余計なおせっか

感謝する。それが過去についていをせぬことを教えられた」と。私たちのできる唯一のことなので、今回、聖書学院まで私を迎えに

来てくださいました道本先生も、車の人生訓に富む『自省録』の著者なかでおっしゃっていました。マルクス・アウレリウスも、その「ぼくは母を尊敬する。母にだけ本の冒頭で、自分をこれまでにしは頭が上がらない。ぼくが今日あてくれた人びとに対して感謝の意は母のおかげだ。信仰に導か

費やしています。彼は言います。「父からはつつま心を強く打たれたからだ」と。

私の両親はクリスチャンでも、高い教育を受け人たちでもありませんでしたが、ただまじめな労働で私たちを育ててくれました。そのことは今も感謝しています。私が会社をやめ、伝道の道に進んだことで、父はつらい思いをしたようでしたが、最後には、こう言い残して死んでゆきました。

「今、何かの宗教を持ってと言われらるなら、私は迷わずおまえの宗教を選ぶ。キリスト教はほんもの宗教だ。おまえたちの生活を見て、それがよくわかった。だから私が死んだらキリスト教式で葬ってくれ」

母に感謝したいことは、戦争が終わった年に中国の済南という町で生まれた私を日本に連れ帰ってくれたことです。私はそのとき、生後二ヶ月。兄は二歳になるかならないかでした。

母から聞いたところによると、それは、トラックに乗ったり、歩いたり、ようやく列車にたどり着いても、長い時間停車したままで、不安な夜を明かしたり、過酷な旅であったとのこと。途中で、

何人かの赤ん坊が命を落とし、だびにふされたとも聞いたことがありません。

考えてみますと、母はそのとき、まだ二五歳。そんな若さにもかかわらず、彼女は母親としての強い意志をもって兄と私を保護してくれたのです。

晩年は認知症のため、見舞に行っても、ときおり私にだけわからず、うつろな顔をしているときがありました。そんなとき、私は、彼女をじっとみつめ、しみじみと思つたものです。私を日本に連れ帰ってくれたのは、この人だったのだ。もしこの人がいなかったら私の人生はどうなっていたらうかと。

さらに私は自分の人生に起こつた最大の事件に感謝しなければなりません。

それは、不思議な導きでキリスト教と出会い、キリストチャンになったことです。

そこで聖書は勧めています。「神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生活の結末をよ

く見て、その信仰にならいなさい」
(ヘブル 一三の七)

福音を伝えてくれた宣教師たちに私はどれほど感謝していること
でしょう。

八〇年近い私の人生には、さまざまな
ことがありました。物事が願ったようには進まず、辛いところを通った時期がなかったとは言えませんが、今、振り返ると、神は、それらすべてをよい結末へと導いてくださったのです。

神の計画に寸分の狂いもありませんでした。それが神の摂理のわざなのだと思えます。(続)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時から、
第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。
○説教は江藤洋子さん。

先週の礼拝

司会は岩崎宏志さん、奏楽は屋
宜浩子さん、証と讃美はベイヤー
ド家族。

説教は第一サムエル一六の一八
から、「表舞台に現われたダビデ」
と題して話しました。

長い間、野でひとり羊を飼って
いたダビデでしたが、彼の奏でる
琴の音が、心の病んだ王サウルを
いやすことになるのです。できれ
ば私たちの歌う讃美、語る言葉が、
人の心を慰めるものでありたいも
のだと思えます。

先週の出席

○第一礼拝が四六名、第二が四
五名、合計九一名(男三四、女五
七)。それに子どもが七名、合わ
せて九八名でした。

○第二礼拝後、交わりのため、
軽食が準備されました。約三〇人
の人が残ってくださいました。

『こひつじ Jr』二六号

「あの人インタビュー」は徳永
めぐみさん、のぞみさん。「編集室

から」は尾頭貴美子さん。受付にあ
ります。自由のお取りください。

六月三〇日の礼拝は、
第一礼拝のみです。

六月三〇日はオランダからモー
レンキャンプさんを招いての礼拝で
す。説教は英語で、通訳がつくの
で、説教時間がいつもより長くな
ります。そこで、その日の礼拝は
一〇時からの一回だけにします。

したがって一時間からの第二礼拝
はありません。まちがいのないよ
うに一〇時においでください。

モーレンキャンプさんは現在八七
歳。昨年、妻のフアニーさんを天
に送り、今はひとりで暮らしなが
ら、それでも説教は続けているそ
うです。日本語はとてまじようず
です。ぜひお声をかけてください。

礼拝後、軽食のときがあります。
そのあと、モーレンキャンプさん
を囲んで質疑応答のときをもちたい
と思います。自由にご参加くださ
い。

着したとの連絡がありました。
彼らの住むジョンソンシティは
東西に長いテネシー州の東の端、
アパラチア山地のふもとにありま
す。熊本空港から羽田、羽田から
ジョージア州のアトランタ、そこ
からジョンソンシティに近いトラ
イシティの空港まで、約二四時間
の長い旅です。

牧師身辺

長女真紀の家族はぶじ自宅に到
ります。

真紀から途中中に送られてき
たメール。
「今、羽田。長い間、お世話にな
りました。とても楽しかった。子
どもたちはパパの日本語レッス
ンがうれしかったみたい」
「ようやくアトランタに到着。帰
りはスムーズでした。夜の一〇時
半頃にはわが家に着くはずです。
リンちゃんがおばあちゃんとお
じいちゃんと離れて悲しいって。
こひつじ館での宿泊も快適でし
た。リビングがあって、アパート
みたいで。何より毎朝の、朝ごは
んのときがなつかしい。みんなで
よくしゃべったね」
にぎやかな二週間でしたが、ま
たぼくたち老夫婦だけの生活が始
まります。